

慰靈友好親善事業

日本遺族会が厚生労働省から委託を受けて実施しているこの事業については、2回目の参加も可能となっていますが、遺児の高齢化により、年々参加者が減少しています。数年先には事業の継続も困難となることが予想されます。行政窓口からの広報も実施されていますが、事業制度を知らなかつたという遺児の方も多くおられます。各遺族会でも機会を見て周知を図っていただき、遺児の方の参加を援助していただきたいと思います。

このたび広島県遺族会会員の参加者から手記が寄せられたので、未参加者の方の参考になればと思い掲載いたしました。投稿者の皆様にはお忙しい中ご協力をいただき、厚く御礼を申し上げます。

（E班）  
斐リピン慰靈友好親善訪問団  
一平成二十四年三月二日（土）九日  
三原市中之町八一一一四〇  
小林 英夫



ールに宿泊し、翌日イロイロか  
やつと三十人位が乗れる小船で、  
ギマラス島沖にてお父さんの無く  
なつた場所へ向かつて花を供える  
事が出来た様子がつい数日前の様  
によみがえつて来ました。年をと  
るのも早いもので、私もお父さん  
の人生の二倍も長く生きる事が出  
来ました。お母さんも七年前にそ  
ちらへ行きました。「お父さん」も  
うお母さんに会えましたか。そし  
て仲良くしていますか。初めてフ  
ィリピンへきた時は良く知りませ  
んでしたが。その当時の同室の方  
から帰国後何度もお会いして、お  
父さんの乗つた鎌倉丸の情報を頂  
き、なお、数々の資料をお送りく  
ださいました。鎌倉丸が諸般の事  
情で秩父丸から船名を変更した事  
等まったく知りませんでした。神

（F班）  
「平成二十四年十一月十四日」  
二十一日  
東広島市高屋町造賀七四九七  
森川慶子  
竹原市新庄町一九二七  
伊藤和子  
父の墓石に昭和二十年七月十七日  
日戦死 フィリピンレイテ島ビリ

戸からマニラを経由してパリクパンへ向け単独航行中にアメリカ潜水艦ガジョンの二発の魚雷攻撃を受け、わずか五分間で船首を上に向け棒立ちになり沈没した事は私には到底考えられませんでした。今回は遺児百三十一名の参加者でした。A班十五名、B班二十一名、C班二十二名、D班十九名、E班十一名、F班二十名、G班二十三名です。私達E班はセブ島慰霊巡拝、パナイ島慰霊巡拝、学校訪問、病院訪問、バラワン島慰霊巡拝、ナガ慰靈巡拝、カリラヤにて全戦没者追悼式等の順番で執り行なわれました、この度は皆様のご協力を得てフィリピン慰霊友好親善訪問團に参加できました。私にとつては前回果たせなかつた鎌倉丸の沈没現場のナソ岬を望むすばらしい海岸にて慰霊できました。大変有難うございました。

ヤバと刻んであります。幼ない時から父の姿は写真でしか見ることはできませんでした。赤紙一枚で招集され、三十九才という若さで戦死した事実だけを、十七年間認めて、一生懸命に生きてきました。

年齢を重ねた今、父が亡くなつた所を尋ねて、父の苦労の一端でも知りたいと思つていたところ、遺族会で慰靈を主とした事業があることを会員さんから教えていただき、早速に申し込みました。遺族会の方々のお世話によつて慰靈友好親善訪問団の一員になることができました。

身の引きしまる参拝により戦没者への追悼の礼をつくしました。母が毎年上京し、靖国神社に参拝していた心情を共有することができました。

今回のフィリピン訪問団は六班あり、私達レイテ島F班は八名で編成され、団長、添乗員を加え十名の小人数で、自己紹介の後すぐ打ち解けて楽しい旅の始まりでした。

メンバーの中に二十年前に遺骨



中央左 築者：森川 廉子

中央右 伊藤 和子

収集に携わりご苦労された方と今  
回慰靈訪問が二度目の方が居られ  
戦争当時の状況を数多く把握され  
ていることに感心しました。私達  
の父に対する思いの浅さに申し訳  
なさが募りました。

成田空港から一路首都マニラに  
乗り継いでセブ島へ、この島でも  
大勢の戦没者が居られたと、フィ  
リピン在住の日本人「関さん」と  
いう現地添乗員の説明に激戦地で  
あつたことを知りました。セブ島  
から高速船で二時間三十分要して  
レイテ島へ、上陸してオルモック  
の海岸でお二人の追悼慰靈祭を地  
元の住民が見守る中厳かに行ない  
ました。

翌日はレイテ島の農村地帯を走  
り、小高い丘の中に風雨に晒された  
小屋が慰靈碑であり、島民の私  
有地となっている。年月の残酷さ

収集に携わりご苦労された方と今  
回慰靈訪問が二度目の方が居られ  
戦争当時の状況を数多く把握され  
ていることに感心しました。私達

を感じる地点で三人の追悼で「里の秋」を精一杯歌い、靈の安らかにとの思いでカンキップトを後にしました。

私達姉妹はビリヤバの慰靈碑に着く前に父の配属された六十八師団が全滅し、軍隊の認識証が多数見つかった場所に立ち、しばし言葉を失いました。草生い茂り、今はこの場所で激しい戦いがあつたと思われないよう陽は照り、風は和ぎおだやかな生活があり、私達はただ安らかに眠つてくださいと願うしかありませんでした。暑いフィリピンでの行軍戦いは難儀なことであつたろうと偲ばれ、今この平和な幸せの礎となつてくださいました多くの方々が居られたからこそ、との思いを一段と深めた今回の訪問でした。

私達はご縁に恵まれて慰靈訪問団の一員として父の慰靈を心から存分にさせていただいたことに對し、遺族会の皆様方に感謝で一杯でございます。

たのは、遺族会の皆様の御配慮の御蔭で、無地巡拝して帰つて来ました。厚くお礼上げます。

二月一日靖国会館にて、結団式を行い、事務局長の挨拶の中で、観光気分でなく、一、慰靈＝個人と第二次大戦で亡くなられた戦没者を慰靈して巡拝する事

ました。この学校に、外国人が来ると言う事が、初めてなので校長先生は、ドギマギさせていた。その反面児童達は、大喜びで飛び跳ねていました。

ハルマヘラ島では、病院を訪問して、車椅子を進呈しました。此処の病院は、車椅子が以前から無くて、欲しがつていたそうです。我々の持参した車椅子が、第一号で希望が叶えられて、大変喜んでおられました。

親善訪問する事を掛けるそのお返しの為に  
その他の話の中で、この様な慰靈法があると言う事を、なんらかの方で知つてもらい、是非参加してもらいたいとの挨拶があつた。  
我々B班、九日間掛け、ハルマヘラ島のカオ地区・アンボン島ソロン地区・ビアク島の慰靈祭でした。各島々での個人慰靈祭の、追悼のことばで、七十年弱の月日の経過で、父との再会と、積年の思い、年長者は、父との出征時の思い出、生まれて間もなかつた人は年老いた自分の姿を、目を凝らして見て下さい。と追悼文の中で讀み上げられていました。参加者皆

々嗚咽をもらし感涙にむせびます  
ソロン地区では、小学校の親善訪問です。児童達の民族踊りで、  
賑やか迎えてくれました。我々の  
微少ではあるが、衣類、文房具、  
運動用具を進呈して、友好を広め

西部ニユーギニア慰靈友好親善訪問団（B班）

〔平成二十五年二月一日〕十日

此の度「西部ニユーギニア慰霊及好親善訪問団」に参加出来まし 松葉 博光